

**日本自動車殿堂**  
**「2021 殿堂者（殿堂入り）」「2021 歴史遺産車」**  
**「2021～2022 日本自動車殿堂イヤー賞 4賞」決定**

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(東京大学 名誉教授)

事務局:〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511 / FAX:03-3291-4418 <http://www.jahfa.jp>

**1. 2021 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 4名**



**豊田英二**  
トヨタと日本の自動車産業発展と  
グローバル展開の礎を築く



**森 美樹**  
法律家の立場から  
自動車交通社会の在るべき道を説く



**長山泰久**  
生涯にわたる  
交通教育の体系化



**井巻久一**  
マツダの業績回復と  
フォードからの独立を主導

**2. 2021 日本自動車殿堂 歴史遺産車 3車**



**カワサキ Z1/Z2**  
(1972年/1973年)



**日産 Be-1**  
(1987年)



**トヨタ セルシオ/Lexus LS400**  
(1989年)

**3. 2021～2022 日本自動車殿堂 イヤー賞 4賞**



日本自動車殿堂  
カーオブサイヤー  
日産 ノート オーラ



日本自動車殿堂  
インポートカーオブサイヤー  
メルセデス・ベンツ EQA



日本自動車殿堂  
カーデザインオブサイヤー  
ホンダ ヴェゼル



日本自動車殿堂  
カーテクノロジーオブサイヤー  
ホンダセンシング エリート: ホンダレジェンド

## 2021 殿堂者（殿堂入り） 2021 歴史遺産車 2021～2022 日本自動車殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(東京大学 名誉教授)

事務局: 〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL: 03-3291-8511 / FAX: 03-3291-4418 <http://www.jahfa.jp>

**表彰式典: 2021年(令和3年)11月15日(月曜日)13時30分から、  
学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)にて。  
オフィシャルサイトにて同時配信します(<http://www.jahfa.jp>)**

### 1. 2021 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 4名

#### 豊田 英二 氏

(トヨタ自動車工業元社長、トヨタ自動車元会長、トヨタ自動車最高顧問、1913～2013)

トヨタと日本の自動車産業発展とグローバル展開の礎を築く

豊田英二(とよだ・えいじ)氏は日本の自動車産業の黎明期からトヨタ自動車の経営に携わり、純国産車の開発や生産体制を確立し経営基盤を強固なものにすると共に、世界に冠たる日本の自動車産業の発展に貢献されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

#### 森 美樹 氏

(弁護士、1931～2019)

法律家の立場から自動車交通社会の在るべき道を説く

森美樹(もり・よしき)氏は弁護士として交通事故などの訴訟と被害者救済に精力的に取り組むとともに、モータリゼーションの進展に伴う負の側面に焦点を当て、その解決策の提言に主導的役割を果たされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

#### 長山 泰久 氏

(大阪大学名誉教授、1932～)

生涯にわたる交通教育の体系化

長山泰久(ながやま・やすひさ)氏はわが国においてはじめて交通心理学を体系化し、独自の研究領域として確立するとともに、運転者教育をはじめとした交通教育と教育訓練の普及を先導されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

## 井巻 久一 氏

(マツダ元代表取締役会長兼社長兼 CEO、1942～)

### マツダの業績回復とフォードからの独立を主導

井巻久一(いまき・ひさかず)氏はマツダ株式会社の代表取締役社長として業績の回復とフォードからの独立を主導。ブランド戦略を推進、技術開発の長期ビジョンの策定を行なうとともに人材育成にも取り組まれました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

## 2. 2021 日本自動車殿堂 歴史遺産車 3車

### カワサキ Z1 (1972年) / Z2 (1973年)

大排気量のスーパースポーツバイクとして開発されたカワサキ Z1は、海外市場で高く評価され、日本仕様の Z2 と合わせて空前の販売台数を記録、カワサキのブランド構築の源流となる歴史的名車である。

### 日産 Be-1 (1987年)

日産 Be-1 は、少量限定生産の「バイクカー」というジャンルを確立し、さらにレトロとモダンを融合させた新たなデザイン手法を編み出し、その後の内外の自動車デザインに大きな影響を与えた歴史的名車である。

### トヨタ セルシオ / Lexus LS400 (1989年)

トヨタ セルシオ / Lexus LS400 は、米国市場に向けてパーソナルユースの最高峰を目指して開発され、日本の高級車の方向性を指し示すとともに、その技術レベルの高さを世界にしらしめた歴史的名車である。

### 3. 2021～2022 日本自動車殿堂 イヤー賞 4賞

---

#### 2021～2022 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

##### 「日産 ノート オーラ」および開発グループ

品位あるきめ細やかな上質感を持つ先進コンパクト  
高い遮音技術とプライベート音響空間の創造  
第2世代 e-POWER による高い静粛性と走行性

---

#### 2021～2022 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

##### 「メルセデス・ベンツ EQA」およびインポーター

プログレッシブラグジュアリーデザイン具現化 EV  
先進技術でEV 衝突安全性を高度に支援  
コネクテッド技術による安心・安全ライフの提供

---

#### 2021～2022 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

##### 「ホンダ ヴェゼル」およびデザイングループ

独自の M・M 思想を SUV に具現化  
スタイリング最適化で優れた SUV の空力性能達成  
爽快な視界を生み出すスリーク&ロングキャビン

---

#### 2021～2022 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

##### 「ホンダセンシング エリート：ホンダ レジェンド」および開発グループ

渋滞運転機能による自動運転レベル3の実用化  
安全性、信頼性を確保した冗長設計  
高精度・多重情報を活用した優れた車両制御

---

【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 山田国光

[info@jahfa.jp](mailto:info@jahfa.jp)

TEL:03-3291-8511 FAX:03-3291-4418

\* 日本自動車殿堂の組織、活動実績などについては <http://www.jahfa.jp> をご覧ください。

\* 受賞者(車)の詳細、写真データは11月8日(月)午後12時に公開いたします。

<http://www.jahfa.jp>

## 参考資料 1

### 2021～2022 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2021～2022 日本自動車殿堂カーオブザイヤー		(MAX:1600 点)
1位	「日産 ノート オーラ」	1158 点
2位	「ホンダ ヴェゼル」	1128 点
3位	「マツダ MX-30/EV」	1078 点
2021～2022 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー		(MAX:1600 点)
1位	「Mercedes-Benz EQA」	1302 点
2位	「VW GOLF」	1186 点
3位	「BMW 4 Series Gran Coupe」	959 点
2021～2022 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー		(MAX:1300 点)
1位	「ホンダ ヴェゼル」	1106 点
2位	「日産 アリア」	1088 点
3位	「マツダ MX-30/EV」	860 点
2021～2022 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー		(MAX:1400 点)
1位	「Honda SENSING Elite:ホンダ レジェンド」	1360 点
2位	「EDGE コンセプト:トヨタ MIRAI」	1150 点
3位	「e-4ORCE :日産 アリア」	954 点

## 参考資料 2

### 日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

#### 1. イヤー賞 4 賞の選考

当該年度において発表・発売された新型車「最も優れた乗用車・輸入車・デザイン・テクノロジーおよびそれらの開発グループ等」を表彰する。

#### 2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2020年10月16日から2021年10月15日までをその期間とする。

#### 3. 選考方法

(1)イヤー賞は、選考の客観化と定量化そして高質化を目指し、事前に各賞の選考委員集団の評価特性を位置付ける。すなわち、評価を行う側の委員の評価特性を「実用利便性」「経済性」「先進性」「安全性」「環境性」「審美性」などの項目により計量・解析し、レーダーチャートによって提示する。

(2)各賞の選考は、選考委員の投票(上位6車選出・評価総合点)によって行う。

(3)選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ59名があたる。

(4)選考の投票には、総合評価および階層分析法(Analytic Hierarchy Process)を組み合わせた選考準備委員会が構築した統計分析・評価方式(データの正規化などによる評価の客観化・定量化)を用いる。

以上